

事業の名称
「男おひとりさま料理カントン教室」開講事業
事業の分野
☒ 保健, 医療又は福祉の増進 ☐ 社会教育の推進 ☐ まちづくりの推進 ☒ 男女共同参画社会の形成の促進 ☐ 子どもの健全育成 ☐ 情報化社会の発展 ☐ 観光の振興 ☐ 農山漁村又は中山間地域の振興 ☐ 学術, 文化, 芸術又はスポーツの振興
事業概要 (150字以内)
この事業は主にシニア世代の男性(単身、既婚に限定せず)が、いつまでも健康で心豊かな生活が送れるよう、その基盤となる食生活について、料理初心者の男性に限定した基本的な料理の作り方を学ぶ教室作りである。H23年度からスタートし4年目となるH26年度は「協働事業」2年目の年として、推進するものである。
社会的背景と解決しなければならない課題
*提案するに至った社会的背景や市民ニーズ等は何ですか。また解決しなければならない課題は何ですか。 成人男子を対象とした倉敷市調査では料理知識の乏しい男性は約63%となっている。これより63～72歳(講座受講者の大凡年齢層)は約2万人が該当すると推定される。このような背景及び趣味や学びの場の提供も含め、市内6ヶの公民館で男性向けの料理教室が開催されている。しかし、7～8割を占めるリピーターの存在や講師1名、教材の薄さなどあって、初心者は効率的に短期間でマスターすることが難しい状況である。このため当会ではH23年度から初心者限定の本事業をスタートしたが、受講者からは高い評価を得ており、そして修了後の調査でも、料理作りを継続している人が8割以上あり、当初の計画はほぼ満足できている。課題としては対象となるシニア世代のリタイヤー男性数が毎年2千人以上と潜在需要は高いが、応募には十分結びついていないこと及び当企画提案事業終了後の姿を構築する段階になってきている。
受益者の範囲 *提案する事業の対象範囲を具体的に記入してください。
主にリタイヤーしたシニア世代の男性の中で、料理初心者を対象としている。 (門戸開放のため再受講は認めていない。) 受講希望者の年齢層は60～83歳と広く、市内在住の料理初心者は2万人以上存在と推定している。
事業実施後の到達点*事業を実施した1年後、現状の課題がどれだけ改善されているかを成功とする。
(1) 卒業生の料理継続率 半年 85%以上、2年後 75%以上 (2) 会としての底上げ 準会員の確保 倍増 合計15名(新規6名) サポーターの確保 " 6名(" 2名) (3) シニア男性の意識改革 定量評価は難しいが、応募反応などで推測したい

事業の詳細 *事業の対象者・実施方法(どのような内容・方法で)・実施場所・実施手法の特徴, 斬新なアイデア, 事業の魅力, 最も重視していることなどについて簡潔に記入してください。

本事業は、初心者が効率的に短期間習得できるよう次のような特長がある。

- ① 初心者限定で生徒数は18名(3名/調理台)とし、各人の作業密度を高める。
- ② 講師陣の定員はプロ1名と男性サポーター3人(正)の4人体制とする。
- ③ 理解促進及び自宅での復習を容易にするため詳細写真付レシピを配布する。
- ④ 食材購入の実習を毎回6人を対象に近隣スーパーにて行う。
- ⑤ 受講生の自宅復習を義務化させる。(応募の条件としている)
- ⑥ 毎回アンケートをとり、評価の把握及び問題点の早期改善に努める。
- ⑦ 卒業生に対し応用講座や準会員の勧誘を行う。

具体的には以下の通り

対象: 料理経験の殆どない55歳以上の男性(単身、既婚の制約なし)

講座: 調理の基本的な知識、栄養バランスのとれたシンプルな料理の作り方、食材購入の仕方などを学ぶ

実施: 2014年夏季コース(3.5ヶ月間 隔週開催 全7回 3.5時間/回)
冬季 // (夏季と同じ)

人数: 18人/季(初心者限定とし再受講は不可 門戸開放のため)

参加費: 8400円/季(=1200円/回×7回)
(材料費、講師費用(市補助金を一部充当))

講師: 管理栄養士(1人)、男性サポーター正3人+補2人(養成用)
(サポーターは基本的に本教室の卒業生から充当)

場所: ライフパーク倉敷 調理実習室

主催: シニア世代のサバイバル男料理の会 **共催:** 倉敷市保健所 健康づくり課

団体の能力の活用 *団体の持つ能力や特色を、課題の解決にどう活かしていきますか。

スタート時から少数精鋭であり、料理についてはビギナーであったが習得のための努力をし、又教室運営という観点では、各人の特性を生かし中味の濃い教室づくりを行ってきた。今後は将来的な展望から、シニア男性の意識改革とサポーター要員確保のため正会員以外に準会員制度より獲得した人材パワーも生かすようにしたい。

前年度事業と比較し、拡大・縮小した内容

*初めて申込みをする団体は記入不要です。

1. 将来構想に沿った活動

事業を自立させるには、サポーターの安定確保が条件となる。このため卒業生に対してまずは準会員としての勧誘、応用講座などのイベント開催を行う。これらにより見出されたサポーター候補は実講座に投入し(2~3名を予定)、実戦可能なレベルにし、会としての組織力の強化を図る。

行政との協働

協働する主部署名(健康づくり課食育推進係)

協働するその他の部署名 無し

協働する主部署の同意 (有り ・ 無し)

協働する部署との会議について※概ねで結構です

5月16日 (内容：H25年度役割分担最終設定、夏季講座応募分析)

7月22日 (内容：夏季応募の総括、H26年度事業対応・他教室調査内容協議)

8月22日 (内容：冬季講座応募チラシリニューアル、応募活動討議)

9月19日 (内容： 〃 、 、事業最終案討議)

10月18日 (内容：市民学習センターヒヤリング、 〃)

11月15日 (内容：H26年度事業申請書の最終チェック、冬季応募分析)

協働する部署の役割

倉敷市民の食育推進計画を実践されているが、特に料理経験の乏しいシニア男性につきその意識改革を図れるような広報及び、毎回の新規応募が達成出来るような支援を継続してお願いしたい。また会場となる調理実習室の予約をお願いする。

今後の展開への支援について

本事業はH23年度からスタートしたので、事業継続期間の上限(5年)に対し、H27年度が最終になる。このため、その後のスタイルを想定する必要があるが、方策として私的な事業化、或いは市からの委託事業化が考えられる。

前者は受講料が市公民館講座(750円/回)に対し約4.5倍高額となり、応募へのブレーキが大きく働くという事が懸念される。

後者は現在、そのような制度がなく実現には種々の制約があるとされているが、毎年大量に発生するリタイヤー組が存在する以上、当会としては公的機関でシステム的に対応すべきではと考えている。

しかしながら、過去の倉敷市市民企画提案事業には、教室開講というジャンルは無く、より多くの知恵を出して作り出さねばならないので、ご支援をお願いする。

他の市民活動団体との協働

*他団体と協力して事業を実施する場合は、その名称とその団体に求める役割を記入してください。

予算書

(収入の部)

(単位：円)

項 目	金 額	内 容
参加費	303,000	(1200円/回×7回×(18+18人))
会費からの繰入金		
その他	30,000	応用講座参加料 (2000円/人×1回×15人)
市補助金	151,000	／
合 計	484,000	

(支出の部)

(単位：円)

区分	項 目	金 額	内 容
経費① (対象経費)	報償費	107,000	講師料 7580円/回×7回×2回/年 講義時間 (3.5Hr)
		10,000	講師 基本レシピ作成
	消耗品	148,000	食材費 440円/回×7回×(24+24)人×1回/年
		30,000	応用講座用対応 2000円/人×15人
		18,000	献立研究費 750円/回×6人×4回/年
		5,000	備品 100円/人×(36人)、食材運搬用ケースなど
	印刷製本費	27,000	応募用チラシ作成 (カラー紙) 市保有の輪転機使用
		36,000	レシピ等の製作印刷費
		15,000	用紙、インクジェットカートリッジ
			プリンター購入
経費② (対象外経費)	使用料および貸借料	-	協働事業によりゼロ
		-	
	その他	18,000	通信費用 (応募、アンケート)
	小計①	414,000	
経費② (対象外経費)	男性サポーター	70,000	講座アシスト 1000円/回×5人×7回×2
	小計②	70,000	
合 計		484,000	

(記入上の注意)

- ※ 実施可能な経費、内容に見合う経費で計画してください。過大な経費は避けてください。
- ※ 内容欄には、単価・数量等の内訳を記入してください。(別紙添付も可)
- ※ 経費①は補助対象経費です。経費②は対象外経費です。
- ※ 事業実施のために直接必要な経費だけ計上してください。
- ※ 予算のときは、金額欄は切り上げて千円単位で記入してください。